

人権センターだより

電話 82-0076
ファクス 82-0110
s0150@town.nichinan.lg.jp
Vol. 163



第3回ふれあい人権講座

「ネット社会の人権を考える」

「若者はどんな世界を
生きているのか」

■話：人権センター職員

世界中に普及したインターネット。その有益さ・便利さは誰しもが認めるところですが、革命のような大きな変化のまぶしい光には必ず影があります。今回は人権を損なうネット社会のさまざまな影の部分をお話ししました。

【SNSを介したいじめのこと】

これは、特に子どもたちに多い問題のひとつです。通信アプリのグループ機能で仲良しのグループを作り、そこでいろいろなやり取りをしています。そこでグループに入りたくても入れてもらえない

とか、途中で排除されるなどといったことが起こります。特定の子どもへの誹謗中傷の拡散が起こり、結果いじめにつながり、不登校や最悪は自死に至ることがあります。

SNSはDV（近親者間の暴力・虐待）の原因になることがあります。スマホでいつでも連絡をとれるようになったことで24時間相手を支配しようとする人が出てきます。例えば「返信が遅い！何をやっていたんだ！」と言うなど、それが嫉妬、怒り、暴力、虐待へとつながります。

【溢れる嘘やフェイク（騙し）】

これはおそらく大人の方はお気づきのことと思います。しかし知識や経験の浅い子ども、若者へのリスクは大きいものです。誤った知識が刷り込まれたり、悪徳商法に飛びついたり、なりすました人物に騙されて詐欺にあったり暴行を受けたり悪徳商法もあります。

最近の話題に京都府のウトロ地区放火事件があります。ウトロ地区は戦時中の国策の結果から現在も在日韓国人の方たちが住んでいる集落です。そこを22歳の若者が放火しました。たくさんの死傷者が出てもおかしくない犯罪です。動機は「ここは在日韓国人が不法占拠している土地である。在日韓

国人は日本国から多大な特権を受けている」といった間違った情報信じ込み、在日韓国人への憎悪を募らせたもの。先入観、偏見、差別による憎悪犯罪（ヘイトクライム）です。犯人はこの知識をネットから知ったとされています。実際、ネットの世界には在日朝鮮人の方たちへの悪意ある情報が溢れています。ネットの誤った情報に洗脳された典型的な例だと思います。

【教祖も生み出している】

ネットで意見を発信し続けることで、熱心な若いファンを獲得している人たちがいます。良く言えば「カリスマ（超人的で英雄視される人）」ですが、社会にとって有用な意見ばかりではありません。注目を集めるための明らかな嘘もあります。しかし、ファンの方たちは無批判に追随していき、心配になります。この関係は新興宗教の教祖と信者の関係に似ています。



【便利さの代償】

部落差別問題へのデマ等、あげればキリがありません。今、世界ではインターネットとの関わり方を子どもたちにどう教育していく

かが大きな課題とされています。この取り組みの必要性を強く感じます。便利さの代わりに支払う代償が、これ以上高額にならないように。

10月の人権・行政相談所

■日時 10月14日（金）

午前9時～正午

■会場 子育て支援センター

『ふれあい文化祭』は中止します

先日、実行委員会で開催の可否を検討しました。いろいろな意見を交わしましたが、最終的にコロナ禍が続いていることを考慮し、中止を決定しました。

第6回ふれあい人権講座

★寄せ植え教室を開きます

■講師 後藤 厚見さん

■日時 10月25日（火）

午後1時30分から

■会場 日南町人権センター

■参加料 300円。

花を育てることで思いやりの心を養います。

ご希望の方は人権センターまでご連絡ください。（先着10名）

（申込期限 10月14日）

